



防災教育推進教員研修会

平成28年8月2日(火)実施

【研修Ⅰ】(1) 講義「高知県安全教育プログラム」に基づく防災教育の徹底

高知県教育委員会事務局 学校安全対策課

(2) 講義・演習「まもるいのち ひろめるぼうさい」

日本赤十字社 高知県支部

助かる人・助ける人になるために

- 揺れから自分を守るためのキーワード
「落ちてこない」「倒れてこない」
「移動してこない」場所に身を寄せる
→次の行動へつなげる
- 津波からの迅速な避難
「想定にとらわれず避難する」
「最善を尽くして行動する」「率先避難を行う」
- いつ、どこにいても自分の命を守るために、
すべての学校で防災教育の実施が必要である。



- ★年間3～5時間以上の授業を！
- ★年間3回以上の避難訓練を！
- ★保護者や地域とともに！



青少年赤十字防災教育プログラム

- まもるいのち
自分の命を守る力を身に付けること
- ひろめるぼうさい
学校、地域、家庭に防災を広めることで、防災意識を高め、周りのいのちを救うこと。いのちの大切さ、思いやる心を育てること。
- (演習) 竹ひごタワー作り
限られたアイテムだけを使ってタワーを作り高さを競うグループワーク



- (災害時に対応できるために)
- ★協力することの大切さを体感する
- ★意見を出し合える関係を作る
- ★状況を冷静に見とることの大切さに気付く
- ★一生懸命に取り組み、決定する



防災教育の取組＝人道の実現に向けた取組（「人間のいのちと尊厳」を守ること）

【研修Ⅱ】 講義・演習「学校防災教育の在り方について」

講師：兵庫県立松陽高等学校 諏訪 清二 教諭

- 防災管理：安全な場の提供と他者による安全の確保
 - ・ 学校を耐震化する（場の提供）・ 大雨の時、避難勧告、避難命令を聞いてから避難する
 - ・ 教職員が子どもたちを誘導して避難する（他者による安全の確保）
大人の判断ミスは致命的 大人がしっかりしなければならない

○ 防災教育：自ら安全を確保

- ・ 揺れが発生したときに、安全な場所を見つけ、そこで身を守る
- ・ 大雨の時に、避難勧告・避難命令が出る前に、できるだけ早く避難する
- ・ 地震発生時、その時子どもはどこにいる？ その時、その子どもを誰が守る？

学校が子どもを守れる機会は**4分の1**の時間に過ぎない（1日6時間授業として 24時間÷6）

子どもに必要なのは防災管理と防災教育の両方である

○演習 「DIG」と「目黒巻き」を用いて課題を書き出す

DIG: Disaster Imagination Game・・・地図を使い、災害を想像しながら、対応を考えていく

目黒巻き：災害発生後に起こることをイメージして時系列に並べ、対応を考えていく

- ★ 地域、保護者、子どもたち、関係機関と一緒に学習するととっても面白い！

災害を体験した子どもへの対応（心のケア）が重要



【受講者の感想】

- ・ 竹ひごタワーの実践や情報共有について、振り返りを充実させていく研修を学校でも行いたい。
- ・ 震災後の心のケアの意義や進め方が新鮮であり、とても参考になった。

目的 自己教育力のある学級集団を育成するための教師としての資質、能力の向上を図る。

「互いに高め合う人間関係づくり」

－構成的グループ・エンカウターの理論と実際－ 講師：高知大学 鹿嶋 真弓 准教授

構成的グループ・エンカウターとは
(Structured Group Encounter : 略称SGE)

リーダーが用意したプログラムで作業や討議をする方法でエンカウターをすること。人間的成長を目指した集団体験学習。

エンカウターは「出会い」

- 他者との出会い
- 自分の知らない自分との出会い

	自分が知っている 自分	自分が知らない 自分
他者が 知っている 自分	フィードバック 開かれた窓	気付かない窓
他者が 知らない 自分	自己開示 窓を広げる	隠された窓 暗黒の窓

〔ジョハリの窓〕

自己開示

自分が知っている自分の領域を
広げるのが自己開示

フィードバック

他者が知っている自分の領域を
広げるのがフィードバック

自分の領域を広げる

(人間は自己を理解している程度に他者を理解できる)

本音と本音の交流のできる親密な人間関係を通してこそ自分の本音に気が付き、ありのままの自分が出せる。他者の本音を受け入れることができる。

リーダー（教師自身）がSGEを体験し、自己開示とフィードバックを体感しておくことが大切。

リーダーは好ましい人間関係のなかでグループがプログラムに参加できる環境をつくる。

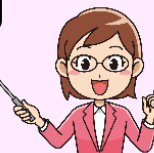
構成的グループ・エンカウター（SGE）の実際

Q： グループはどのように構成すればよいですか？

A： グループを画一化しないようにしましょう。画一化されたグループでは自己開示しにくくなります。

Q： SGEを実践するときに大切なことは何ですか？

A： SGEを行う目的を明確にしましょう。時期や学級、学校の様子にあったエクササイズを選択して行うことが必要です。例えば、入学当初やクラス替え後、大きな学校行事の前など、子どもたちに何が必要なのかを明確にしてSGEを仕組みましょう。



鹿嶋先生に教えて
もらいましょう！

Q： エクササイズにうまく参加できない子どもへの対応はどうすればよいですか？

A： 助手（記録係、時計係など）にするなどの対応をしましょう。活動の目的や意義を正確に伝えることや、参加に乗り気でない子どもを含む、子どもたちの気持ちを代弁（視点共有メッセージ）することで参加しやすい状況をつくりましょう。

【受講者の感想】

- ・ SGEの体験を通して、他者や自分自身に対する理解を深めることができた。また、お互いを受容することができ、よい人間関係を構築する機会がもてた。
- ・ 「何をしようかな」ではなく、「子どもたちに何が必要かな」を考え、「楽しかった」だけで終わるのではなく、「自分ってこうだったんだ」と気付けるSGEを仕組みでいきたい。そのためには理論に基づくことが大切だと分かった。